

令和4年度第1回西川町総合教育会議 会議録

令和4年11月2日（水）午前11時より、西川町役場第1・2会議室において令和4年度第1回西川町総合教育会議を開催した。

出席者	西川町長	菅野 大志
	西川町教育委員会教育長	前田 雅孝
	西川町教育委員会委員	阿部 仁
	西川町教育委員会委員	近松 和朗
	西川町教育委員会委員	大泉 奈緒子
	西川町教育委員会委員	松田 光子

事務局出席者	西川町総務課長	佐藤 俊彦
	西川町政策推進課長	荒木 真也
	西川町健康福祉課長	佐藤 尚史
	西川町学校教育課長	安達 晴美
	西川町生涯学習課長	奥山 純二
	西川町学校教育課主幹	佐藤 和則

会議次第

1. 開 会

2. 町長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

対話やアンケートをすると、西川町は一貫校で、地域の方とも関係があって、環境も良く、給食費も無償ということのをうまくアピールをできないのか、予算をもっと町民にお知らせできないのかと、よく言われる。

実際に西川町が良いということを広めていくために、皆さまのお声をお聞きしたい。情報発信を町の方でもしっかり行っていくので、そういった声、良さをお知らせいただきたい。

今日はざっくばらんにお話をいただきたい。

3. 自己紹介

4. 協議事項に係る説明

(教育長より)

(1) 「総合教育会議」「教育大綱」「教育振興基本計画」に係る法令について

資料に基づき説明

(2) 西川町の教育の推移と西川学園(保小中一貫教育)全体構想について

平成 21 年度から西川町学校教育の指針

平成 28 年度から教育大綱、教育振興基本計画により推進

令和 2 年度に西川町教育大綱を 3 年間延長(令和 5 年度まで)

令和 2 年度に西川町教育振興基本計画を改定、令和 3~5 年度までとした。

令和 2 年度には西川町学校教育の指針である西川学園構想が動き出した。平成 21 年の指針の基本的なところを引き継ぎながら、地域と共に創る保小中一貫として、学校教育目標、めざす子ども像を描きながら、保小中の段階でどういう資質能力を育むかを明らかにして、大きな 3 つの柱のもとに、教育プラットフォーム西川の中で育む取り組みをしている。

(3) 「教育大綱」「教育振興基本計画」策定に係る国・県の教育施策について

次期の教育振興基本計画は、新たに策定される西川町第 7 次総合計画や、国の第 4 次教育振興基本計画、山形県の第 6 次生涯学習振興計画に照らして、町の施策との連動性を図るために、計画年度を令和 6 年度から令和 13 年までの 8 年間、前期後期 4 年として、総合教育会議と教育委員会で協議をしながら、来年度中に策定していきたい。

(4) 「教育プラットフォームにしかわ」について

保小中一貫教育西川学園を支える両輪が学校運営協議会とにしかわ地域・学校パートナー会議で、この上に実働の学校支援体制であるパートナーチームを作りながら、学校教育を充実させ、地域と学校の WINWIN の関係を築いていこうとしている。

5. 協議 座長:町長

(町長)

ご意見いただけますか。

(委員)

平成 28 年から時が経って、世の中も変わってきた。

子どもにスポットを当てるのが 1 番大切だが、先生方、地域の人にスポットがあたる機会がないのではと思う。10 校もあった時代には、他の学校の取り組みを意識してお互いが切磋琢磨し合

って、良いものを目指す風潮があった。今1校になって、なかなかそれができていないのではないか。先生、町の人達も外の人との交流が少なくなっているのでは。コロナもあり、先生方も研修や会議に出て他の学校を見たりしているだろうか。例えば地域の人、PTA、保護者と学校の素晴らしい取組みをやっているということを先生方は分かっているかもしれないが、保護者、地域の人には分からないと思う。

取組みを広げるために、大人(保護者・地域の人)の学校教育に関する研修を充実できないか。地域に人を取り込んで教育を進めているので、外のことも知らないと、大人の人も子どもと触れ合うときに広い視野を持って教えられないし、伝えられないではないかと思った。

(町長)

大人の方たちの巻き込みと、その大人の人への教育ということですか。

(委員)

学べる場があってほしい。

(委員)

教育を身近に感じるのは自分が親になったときで、自分が受けてきた教育と15年くらいずれて学校教育に触れる。その間に学校教育は変わっている。そうなったときに、自分が受けてきた教育の価値観と、今子ども達が受けている教育の価値観にずれが生じてくる。

昔の教育と価値観がかわった時に、親は学びながら新しい世の中の教育を学んでいくし、子どもにはこうさせたいという気持ちがあると思う。

これから2次の大綱、計画が策定されるにあたって、多くの方の意見を吸い上げながら新しいものがつくられる。時代に合った教育大綱ができることによってこれからの町づくり、子どもの育て方にも反映されると思う。

(町長)

大綱ができたら保護者に説明していたのか。

(教育長)

前回の経緯が分からないが、町の大綱を保護者に説明はしていなかったと思う。

今、町が大事にしていること等が保護者の方たちに伝わっていないと思う。反省すべき点だと思う。大綱は、もっと分かりやすいシンプルなものが良いと思う。町民や保護者と共有していかないと意味がないと思っている。

(健康福祉課長)

全体の研修会で配付はしたと思うが、興味がなければ気づかない。

(町長)

もっと柔らかく書いた方が良い。

(委員)

4年前に磐梯町に視察で行ったときに、保小中全体が分かるパンフレットをいただきとてもいい話になり、行政のほうで整えて全保護者にパンフレットを配付している。

ただ、先ほど町長が言った通り、配付だけでは興味がないと単なるチラシになってしまう。

(教育長)

町長が言ったPRについては、いろいろしているが伝わっていない。子育ての施策をもっとアピールする必要がある、学校教育課や健康福祉課と連携して進める必要がある。

(町長)

今までしてきた実績例えば食育活動、わんぱく教室等を楽しそうに見えるように書くと良い。

このような資料を移住などで使いたいときは、お母さんの声とか、写真を入れると良い。

(健康福祉課長)

高校の募集要項では、このようなパンフレットには在校生の顔写真や、生徒の声を書いてあるので、そのようなものがあるといいと思う。

(町長)

地域課題や社会課題解決していくようなアイデア出しをしているとか、そういう能力を育む、ということを少し授業でできたらいい。小中学生は、地域課題解決ができる方たちだと思っている。担い手にもなれる。うまく作るともっとPRになると思う。

(教育長)

大人の学びの機会の提供等をする際の教育委員会として情報の発信ツールがなかった。今町長は、チャットなどでいろいろ町の動きを積極的に発信しているが、学校、生涯学習でも発信ツールを持たないとだめだと思っている。

今現在オクレンジャーのメールシステムを保護者の負担で運用しているが、町として情報を伝えるツールを持たなければならないと思う。

各家庭にタブレットを配付することと連動すれば生きてくる非常に大事なツールだと思う。今学校の様子もブログで写真を載せたりしているが、保護者だけでなくほかの家族も見れるということが大事だと思う。

これから振興基本計画を考えていく上で大事なのは、ふるさとを愛する魂を育てることと、外とつながっていける、仮に外に行っても西川町とつながれる力を育てていくことが大事だと思っている。そうすると、デジタルは大きなポイントになってくる。

戦略的に取りくんでいく必要があると考えている。

(町長)

そのとおり。このチラシを作るときも、今副業人材とか支援している人がいるので、その人の意

見を聞くと良い。意見をいただく機会を持てばいいと思う。

これは町内向けに出しているのか。

(教育長)

町の中だけではないが、実際配付しているのは町内のみ。

(町長)

このつくりは移住政策目的ではない。魅力発信というのではなく、ご理解くださいという町内向けという感じ。目的、対象をしっかり持つと良い。

(委員)

保育園から小学校に行くときに、何人が転居してしまう。少人数だから特に保育園で丁寧に行っているのに、そこを理解してもらいたいと思うことがあった。

作ったのはいいけどアピールが足りなく、せっかく作ったのに伝わっていない。新しくするとき、その辺を考えていただきたい。

本当に学校でやっていただきたい教育、先生方の資質を高める教育のためには、お金と広域化が必要と思う。これからの町長の活躍に期待したい。

(町長)

転出を防ぐ観点からすると、他自治体との比較表を作ることが有効。その時に、他自治体に勝てるどころ、地域学習とか、給食がおいしいとかをPRして、逃げられる可能性のあるところと比較する。

(教育長)

移住定住を視野にしたプロモーション用の資料は前々から各課連携してしなければならないという話にはなっていた。教育だけでなく他課と連携して、生の声も入れて作っていくということは大事だと思う。

(委員)

西川の教育は、環境もいいし自分の子どもをここで育ててきてよかったと思う。

よその人からも、西川の自然豊かなところで、小学校も新しいきれいだし良いねという話も聞くが、子どもを育てて行く中で、思いもよらないことが起きたりしたことがある。どうしても西川町ではだめだから、町外に出ていくという話にも通じると思うが、西川だからこそより良い教育が受けられてここに住みづけられることが根底にあったうえでの受け入れであってほしい。

(町長)

ありがとうございます。

(教育長)

大きな方向性として、今回の教育大綱、教育振興基本計画の施策は、展開して行く段階で町民の

みなさんの積極的な参画を促していかなければと思っている

その意味でも、策定段階からアンケートや対話を大事にしながら町民の声を反映していくようにしていく。教育委員会、総合教育会議、策定委員会と連動しながら進めていく。町の7次総合計画を受けて、今年度中に大綱の骨格を固めていきたい。これについては総合教育会議の場が必要なので、もう1回今年度中に開催する。来年度は大綱の骨格部分に基づいて教育振興基本計画を策定していくという考え方になっている。

策定作業に入る前にアンケートを集約し、策定にあたっては対話会を前提にする。策定委員を募って、町民の有志の皆さんも入って進めていきたい。

令和5年12月には最終案を作成、パブコメし、1月の教育委員会定例会と総合教育会議を経て確定すると想定している。

(町長)

先ほど言った民間の委員は。

(教育長)

策定委員会に、公募した町民の方も入る。

(町長)

わかりました。ご意見などありませんか。教育委員は策定委員に入るのか。

(教育長)

入らない。教育委員の皆さんにはミーティングにはできるだけ顔を出していただき、町民の生の意見も聞いていただければありがたいと思っている。

(委員)

団体の代表者だと男性だけになることがあるので、女性の方も同じくらいになるように配慮していただきたい。

(教育長)

男女のバランスも考えたい。

(委員)

自分たちが育ってきたことを踏まえての意見と、子どもの今学校生活をしている考えは全然違うと思うことが多々ある。もし可能であれば、アンケートをとるときに、今の小中学生と高校生大学生くらいまでの意見をすくいあげていただけるといいのかなと思う。

(教育長)

アンケートをどう進めるかはとても大事なことで、子供たちの声は聞かないといけないと思っていた。卒業生の声、一般の人と分けるとどうか、手法的にあるかと思うが、できるだけ広く声を拾えるような形をとっていきたい。スマホから回答していただけることができるので、大事

に進めていきたい。

(町長)

ぜひそうしてほしい。副業人材のDX支援の人とかにお願いすればいい。

いろんな意見をいただいてありがとうございました。

せっかくパンフレットの話になったので、西川町がアピールできるもの、地域学習とかおいしい給食とか、計測できないところを表すには動画だったり、イラスト、写真だったりする。計測できないところをうまく見せればいいと思う。

ありがとうございました。

6. その他

高校生との SNS での繋がりについて

西川に住みませんかとか、就業支援などの情報を発信するために繋がりたい。

そのための手法について意見交換を行った。

7. 閉会 12時06分終了